

6月定例議会 町政報告

令和4年第4回小坂町議会が6月16日から22日までの会期で開かれ、条例制定・補正予算等4議案が可決されました。
町政報告の要旨をお伝えします。

町政報告要旨

▼地域おこし協力隊の任用

4月1日付けで、ぶどう就農関係2人目の地域おこし協力隊員として熊沢圭祐さんを任用しました。熊沢さんは神奈川県平塚市出身ですが、小坂町に祖母の家があるため、子どもの頃から小坂町を訪れていたそうです。活動内容は、ブドウ栽培、産直施設や小坂七滝ワイナリーでの補助業務となり、将来はブドウ農家としての独立を目指しています。

近年、国内で多発している局地的な自然災害は、規模が大きく被害も甚大となっており、町の災害備蓄品だけでは十分な対応ができなくなることが予想されることから、飲料水の確保について、民間のバックアップにより迅速な手配ができる体制強化を図るものです。

▼新型コロナウイルスワクチン接種の状況

12歳以上を対象に実施した3回目の追加接種は、2月8日から開始し5月21日までに3,922人が接種を完了、対象者の接種率は92・8%、全人口の84・2%となっています。5歳から11歳の小児の初回接種は、鹿角市が実施する接種へ加えていただき実施しています。7歳から11歳を対象とした集団接種は、1回目が4月2日と4月16日、2回目が4月23日と5月7日にかつの厚生病院で実施したほか、個別接種として鹿角市内の医療機関で5歳から11歳を対象に実施し、現在、対象156

また、移住・定住コーディネーターとして令和元年度から活動していた佐藤^{まなぶ}さんは、3年間の任期を終え3月末で退任しています。

▼民間との「災害時における飲料の確保に関する協定」締結

5月31日に、みちのくコカ・コーラボトリング株式会社と「災害時における飲料の確保に関する協定」を締結しました。

人中、2回の接種完了が53人、接種率は34・0%となっています。

▼新型コロナウイルス感染症対策事業

宿泊助成事業は、5,000円の宿泊券を5,000枚交付した結果4,772枚が利用されました。

原油価格高騰による事業継続支援金は、町内144の事業所に対し、従業員の人数に応じて5万円から50万円を交付し、2,415万円の交付額となりました。

燃料券交付事業は、1世帯あたり1枚1,000円の燃料券1万円分を2,186世帯に配布し、2万898枚が使用されました。

米価下落対応営農継続支援金は、対象農家70戸に対して、水稻面積10アール当たり3,000円を交付し、456万1,071円の交付額となりました。

▼観光客の入込み状況

今年の4月29日から5月8日までのゴールデンウィーク期間中の観光客数は、十和田湖主要宿泊施設の宿泊者数が、3,308人で昨年の1,896人と比べて約74・5%の増となっています。主要観光施設では、康楽館が1,688人で、昨年の962人と比べて約75・5%の増、小坂鉱山事務所が1,372人で、昨年の888人と比べて約54・5%増、小坂鉄道レールパークが1,851人で、昨年の841人と比べて約120%増となっています。

康楽館への教育旅行の入館状況は、昨年度137校、8,397人の実績に対して、現在までの実績と予約を含めて、100校、1万人以上を見込んでいます。しかし、コロナ禍前と比べると、一般の観光客はまだ6割程度しか戻っておらず、依然厳しい状況が続いています。

▼アカシアまつり

6月11日と12日の2日間にわたり、第37回となるアカシアまつりが開催されました。

今年は、新型コロナウイルス感染症対策を講じるために、主会場を従来の中央公園から明治百年通りと国際交流広場に変えての開催となりました。コロナ禍による外出制限が緩和されて3年ぶりの開催となったことで、多くの来場者から楽しんでいただけたものと思います。

アカシアまつりのイベントは、地元小・中学校、高等学校の児童・生徒による演奏や演舞のほか、秋田県警音楽隊やアーティストによるコンサートなどの多彩なステージイベントがまつりを盛り上げました。会場では「かつらーめん」二人羽織早食い大会、観光施設を巡る「スタンプリー」に加え、自衛隊などの各関係機関によるPR出展などが実施されるなど、多くの来場者に喜んでいただきました。